

創立から40周年

校長 清水 哲也

ブカレスト日本人学校は1978年に創立され、今年で40周年になります。6月19日が創立記念日でしたが、その前日、全校朝会で、これまでの学校の歩みについてルーマニアの歴史と関連付けたプレゼンを用いて話しました。その内容の一部を紹介します。

1975年(昭和50年) ルーマニアの日本人が増加し日本人学校準備委員会設立

1976年(昭和51年) 日本人学校設立要望書をルーマニア大使館を通じて外務省、文部省に提出

1977年(昭和52年1月) 日本人学校の設立認可を日本政府が決定

その2か月後 有史以来の大地震が発生 → ブカレストは大打撃

- * 160km離れたカルパチアが震源, M7.2(東日本大震災はM9)
- * 33のビルが倒壊, 約1万のビルが大被害
- * 死者1600人(9割がブカレスト市内で建物の倒壊によって)



地震が起きたときの市内

1978年(昭和53年4月) 1年遅れてブカレスト日本人学校開校(補習校として金、土に登校)

1978年(昭和53年6月19日) この日から全日制として授業を開始 → 開校記念日

〈開校当時の様子〉

- * 生活に必要な食料, 衣料などがほとんど買えず, 肉はめったにみられない
- * セクリターテという秘密警察が配置され, 密告を恐れて職場や家庭でも疑心暗鬼
- * ガスの炎が1cmしか出ず, 冬場暖房がストップ, 一番寒い冬に風呂は月に3回だけ
- * ルーマニアの家庭も60Wの裸電球が1つだけ 10周年記念誌他より

〈当時の生徒作文〉

ルーマニアにいたときは, 日本に帰りたと思っていた。いざ帰ってみたら, 日本のよい点は物が豊かなことだけ, 何かおなしくなった。ルーマニアでの生活がいかに楽しいものであるかがわかった。

1986年(昭和61年4月) チェルノブイリ原発事故 (旧ソ連, 今のウクライナ)

- * 当時の生徒は, 放射能から身を守るため, 手袋, マスク, 帽子で学校へ登校
- * 授業中もすべて窓を閉めて勉強

1989年(平成元年12月) ルーマニア革命

- * 民主化へのクーデターで, チャウシェスク独裁政権が崩壊
- * 日本人学校の児童生徒, 保護者はスクールバスでブカレストを脱出し隣のブルガリアへ避難



創立10周年時の校舎

日本が戦後復興を成し遂げ高度経済成長を続けていた70年代, そして生活がより豊かになった80年代, ルーマニアではまだ生活が厳しかったことがわかります。しかし, 当時の生徒作文は, 物の豊かさだけで幸福感は測れないことも教えてくれます。

地震は地殻のプレートの動きによって地下に蓄積されたひずみが解放されることで起こるため周期的に繰り返されるという特徴があります。大きな被害を受けた1977年の大地震より前にさかのぼってみると, その37年前1940年に大きな地震が起こっています。今年2018年は, 大地震から41年経っています。ルーマニアの地震のサイクルから考えるといつ起こってもおかしくないと考えられます。

ヨーロッパの河川は傾斜がゆるやかで日本のように洪水, 河川の決壊などの心配は少なく, 台風も来ません。しかし, 地球温暖化の影響からか世界各地で異常気象による災害が続いています。この7月, 西日本を襲った豪雨でも数十年に一度の重大な危険が迫っていると繰り返されていました。北海道に梅雨がないといったこれまでの常識にとらわれない対応が今後, 必要になるといわれています。災害への危機管理の意識は常に持ち続けていきたいものです。

今年でちょうど40年を迎えるブカレスト日本人学校です。多くの方々の苦勞の積み重ねが現在の姿であることに敬意を表し, これからも着実に歴史を刻んでいきたいと考えています。